kzniiski

列車砲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ｋｚｎｉｉｓｋｉ

【Ｎコード】

Ｎ４１８３ＢＡ

【作者名】

列車砲

【あらすじ】

遠い親戚から転がり込んできた館の地下室にあった鏡に触れると、そこは奇妙な世界だった。剣と魔法系の異世界行き来ものです。基本主人公はチートします。

1　序章

「え～～～と」
ここ…ドコでしょう？
待て待て待て、まずは状況整理です。えーとうん、確か私、あったことないような遠い親戚の遺産とやらでもらった馬鹿でかい洋館を見に来たんですよね。そこのなんか変な封印っぽいものされてた地下室にあったどでかい鏡に触ったら視界がぐにって感じになって…
「ここにいるわけですよね～」
ここは、少なくとも見た感じはは森だ。なんか見かけない、外国っぽい針葉樹がいっぱい生えている。そして、後ろには朽ちかけた廃墟が。
見た感じだと、ドアっぽいものはついてない。ただの石壁だ。
「でも確かにこっちのほうから…」
壁に触れると、
ぐに。
視界がゆがむと、
「あ」
あの鏡の地下室にいた。後ろにはあの鏡がある。
「…戻ってきたんですかね？」
もっかいちょっと鏡に触れてみる。
ぐに。
また森だ。さっきと寸分たがわぬ風景。
石壁に触れて、ぐに。鏡に触れて、ぐに。
何回かやっていると、なんか少し酔ってきたので、やめにする。
「…どこ行きましょうか」
後ろ以外は、どこ見てもうっそうと森が茂っている。
「とりあえず…こっちに進もう」
石壁と反対方向に向けて、コンパスを見ながら、慎重に歩き始めた。

1　序章（後書き）

処女作ですのでいろいろと至らないところがあると思います。できるだけちゃんとしていきたいですが、連載停滞、放棄などあるかもしれません。そのときはすみません。ぜひとも生暖かい目で見てください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4183ba/

kzniiski

2012年1月11日00時54分発行